

合併号
48-49

発行人:麻生 泰
編集人:山下陽司
山口千津子
編集:平山企画舎



Japan Animal Welfare Society

発行 / 社団法人日本動物福祉協会 〒141-0031 東京都品川区西五反田 8-1-8 中村屋ビル内
TEL (03) 5740-8856 FAX (03) 5496-0930 ホームページ <http://www.jaws.or.jp>

第 48-49 号主な内容

- 新潟県中越地震動物救済状況…… 1-3
- 捨て犬・捨て猫キャンペーン …… 2
- JAWS 阪神支部設立 40 周年によせて… 3
- アンドリュウ・ローアン博士セミナー …… 4
- JAWS 事務局スタッフ紹介 …… 4
- JAWS カード案内 …… 4
- [作文コンテスト] 優秀作紹介 …… 5
- シンポジウム報告 …… 6-7
- 「教育講座①」陰山敏昭セミナー …… 8-10
- 動物愛護週間中央行事 …… 10
- カレンダー掲載写真募集お知らせ… 10
- 事務局からのご案内 …… 11
- 定時会員総会・事務所移転のご案内 …… 11
- ジョージジュニア・コーナー …… 12

JAWS REPORT

新潟県中越大震災 被災動物の状況についての報告

平成 16 年 10 月 23 日に発生しました新潟県中越地震では、多数の方々が無事な生活を営まれている方が大勢いらっしゃいます。この震災では、人だけではなく、多くの動物たちも被災しました。JAWS では、発生直後から現地ボランティアと連絡を取り合いながら支援をしてきましたが、さらなる有効な支援方法を話し合うために、平成 16 年 11 月 10 日から 11 月 12 日までの 3 日間、現地ボランティアを手伝いながら、被災地における動物たちの現状を見てまいりました。その話し合いの結果を生かしつつ緊急災害動物救済本部の構成メンバーとして現地の救援活動を継続支援しております。その概要を報告します。

発生から五か月 被災地の動物たちは どうなっている？



レポート

被災地全体の状況

震災後、地元の一部獣医師やボランティアにより、被災地の動物の預かりが始まり、その後新潟県が、県内 5 箇所動物保護管理センターで一時的預かりを開始しました。10 月 31 日に、新潟県動物愛護協会と社団法人新潟県獣医師会とが共同で小千谷小学校に動物相談窓口を設置し、100 力所くらいある各避難所に、相談窓口の案内チラシを配布。その後小千谷総合体育館に場所を移動して運営を行っていました。全村避難した山

古志村については、犬や猫を連れて来て避難先の方に迷惑をかけたくないという気持ちから、残して来た方も多かったとのこと。これらの動物については、県の獣医師職員が数日おきに餌を与えに行っており、幸いにも比較的健康状態は良好とのことでした。

● 11月10日(水)

小千谷市に入ると、震災で一部が壊れ、ビニールシートをかけた家屋や、倒壊し、工事中の家屋が散見されました。また、道路には亀裂が入り、アスファルトが浮き上がっている箇所も見られ、地震の大きさを物語っていました。小千谷市総合体育館前に、新潟

県獣医師会および新潟県動物愛護協会が共同で開設している動物相談窓口のテントが設置されていました。民間ボランティア団体から引き継ぐ形で活動しており、このテント内に、県の小出保健所の担当者も待機していました。これまでの相談は、全部で 100 件程度で、10 日の段階では、仮設住宅に入るまでの間動物を預かってもらいたいという相談が多くなって来ているとのことでした。テント内には救援物資が置かれていて、飼い主の方が相談にみえたときに、少しでも元気になっていただこうと、フードやおもちゃなどを渡していました。ここでは基本的に、緊急時を除き、診療は行っていませんでした。この日は、犬についての健康相談が 2 例ありました。毎日、獣医師が各地域の避難所や被災地を回り、現場での情報収集や、健康状態などペットについての相談受付、物資の補給・学校飼育動物の世話などを行って行っています。また、相談窓口の存在を知ってもらうため、チラシを配布して行きました。この相談窓口は、10 時から 17 時まで開いていて、その間の動物の一時預かりも行っています。この日はミニチュアシュナウザーが 1 頭預けられていました。

● 11月11日(木)

長岡市新産体育館では、新潟県動物愛護協会中越支部と新潟

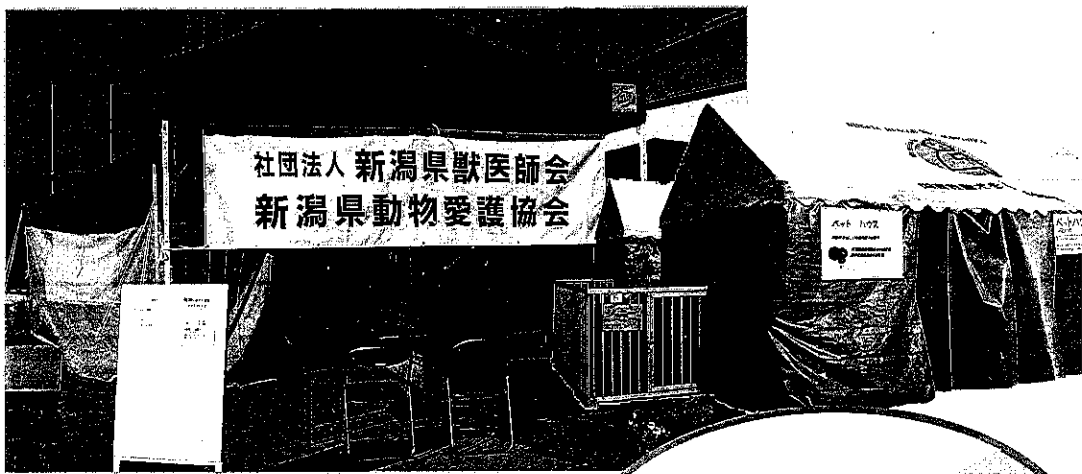
ボランティアの方から、川口町の避難所に体調を崩した犬がいるとの情報がありました。現地に行つて

県獣医師会中越支部が、新産体育館に避難している方々のペットのために、ペット専用テント「ペットハウス」を設置して行きました。9 時から 16 時までの間テント内で動物を預かり、獣医師も常駐していますが、基本的に動物の管理は飼い主主体で行っています。

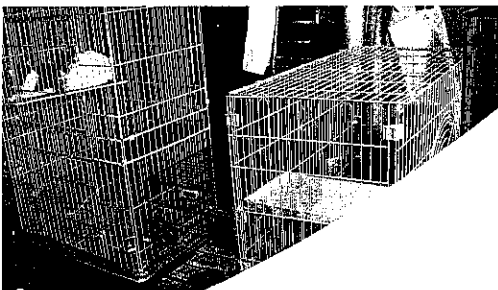
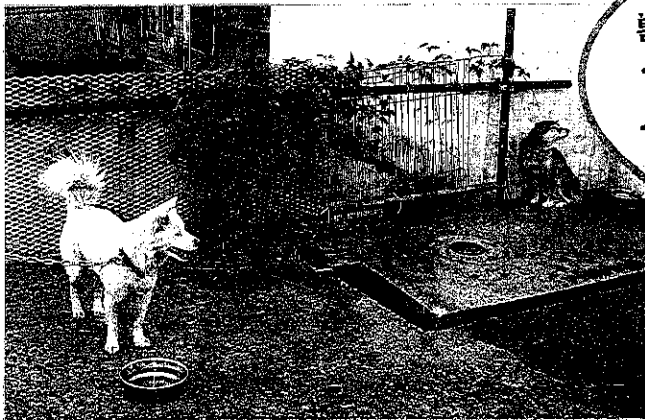
新潟県魚沼動物保護管理センターは、この時点では犬 10 頭、猫 9 頭を預かっていました。預かりに期限はありませんが、将来的には飼い主が引き取る犬猫のみを預かって行きます。預かる数としてはこの程度が限界というところでした。担当者は消毒等にも気を使い、大変努力していらっしゃいました。元来は短期に収容するための施設なので、設備的な限界があります。犬の施設内は暗くて水はけが悪いので、犬は、天気がいい日の日中は外に繋ぎ、できるだけ日光浴をさせているとのこと。この日も外につなげられていました。猫は大きなゲージのような場所でもゲージに入られていました。ゲージ間には目隠しがなく、隣のゲージが見える状態で、猫のストレスが気になりました。上下運動可能な大ゲージもありましたが、ペットシートを敷いただけの小さいゲージの中にいる猫もいました。猫用の大きいゲージとトイレ用の砂が不足しているとの話でした。

ボランティアの方から、川口町の避難所に体調を崩した犬がいるとの情報がありました。現地に行つて

本部事務所が移転しました。詳細は 11 頁をご覧ください。



獣医師会等によって設営された救護テントと保護施設。



地震発生後に、新潟県中越地震における被災活動の一環として、動物救済のために、10月27日、緊急災害時動物救援本部（日本動物愛護協会、日本動物福祉協会、日本愛玩動物協会、日本動物保護管理協会及び日本獣医師会）で構成される）と新潟県は、動物愛護精神及び人と動物との絆の観

「仮本部から」本部設立へ

談窓口の方は、こういった相談に丁寧な答えをいらっしゃいました。校庭に駐車しているトラックの荷台に犬小屋を乗せ、犬を繋いでいる方もいらっしゃいました。

●11月12日（金）

小千谷市総合体育館では、この日は、ウェルシュ・コーギー1頭の預かりがありました。また、震災後、実家に預けてあるパピヨンが余震のたびに発作を起し失神するが、どうしたらいいかという相談がありました。相

みたところ、該当する犬は見当たりにませんでした。もう自宅に戻った後だったのかも知れません。途中、同行の獣医師が、自宅にいる犬・猫の健康チェックを行いました。その際には特に地震の影響によるような健康の異常は認められませんでした。

小千谷市総合体育館から徒歩10分程度の空き地に、自衛隊が張った、動物連れの方専用のテントが10基あり、山古志村の近くの東山から避難して来たという1件のお宅でお話をうかがいました。このお宅では、マルチーズと、柴系雑種との2頭がテントの中で一緒に暮らしていました。東山では、当初ヘリコプターで避難という話で、マルチーズだけを連れて家から避難しました。結局時間がな

現在の預り、保護頭数

現在預かり中の動物の中で、山古志村から保護してきた猫の半分は、飼い主不明のままです。これらの猫については、県が中心となって新しい飼い主探しを随時行いはじめられています。また、2月1日より、被災動物の避妊去勢手術への助成が開始されています。山古志村にはまだ猫が残っており、県職員による給餌が続いています。小千谷市総合体育館の動物相談窓口は、11月23日をもって、現地の動物病院に窓口を渡したとのことでした。県内の動物保護管理センターで一時預かりをしている動物の数は、これまでの総受け入れ頭数が226頭で、2月10日現在預かり中の動物は、犬9頭、猫36頭の計45頭になっています。また、新潟県獣医師会協力動物病院での一時預かり数は、受け入れ総数が102頭で、2月10日現在は大12頭、猫22頭の計34頭です。預かり数が減ったのは、ペット可の仮設住宅に移った飼い主の元や、親戚の家などに引き取られた

点から、「新潟県中越地震動物救済仮本部」を立ちあげました。義援金の受け付けをはじめとして、外部からの人的・物的なサポートによる支援を行ってききましたが、2005年1月19日、社団法人新潟県獣医師会、新潟県動物愛護協会、緊急災害時動物救援本部、新潟県（福祉保健部生活衛生課）からなる「新潟県中越地震動物救済本部」が設立されたのに伴い、仮本部から本部へ、動物救援事業業務を引き継ぎました。今後は本部を活動拠点とし、現地で、ペットフードや物資の提供、ボランティア派遣、ケージなどの貸与、動物に関する相談の受付など、動物救済活動を行って行く予定です。

動物が増えたためです。今のところ、飼えなくなるとして所有権放棄をされた動物はほとんどいないとのことですが、今後そのようなケースが増える可能性も考えられ、そういった動物たちには、新しい飼い主をみつけていかねばならないでしょう。

今回の震災では、新潟県の方々は、県民性として、他人に迷惑をかけたくないという気持ちが高く、動物との同行避難や、預け入れに対して迷いが強かったようでした。災害は、今後どのような地域でも起こり得るものなので、決まりきった形で全国一律な救済活動を行うのではなく、その地域の状況に合った対応が要求されるでしょう。

基大な被害を引き起こす大災害は、いつ、どこで、自分たちの身に降りかかってくるかわかりません。万一の場合、大切な家族の一員である動物たちも共に避難したいと考えるのは、飼い主の方誰しもに共通した思いでしょう。しかし、飼い主にとっても、どんなに可愛くても、あまりに吠えたり、人見知りしたりするような、社会化ができていない動物では、同行避難は難しくなります。普段の飼い方が、緊急時の明暗を分けることにもなりかねません。人にとっても、動物たちにとっても、共にいられることが何よりの幸せだと思います。そのためにも、普段からのしつけや接し方が重要になることを実感しました。

実施結果報告

～不妊・去勢手術費用の一部を助成～

不妊・去勢手術費用の一部を助成することによって、捨てられる不幸な犬・猫を少しでも減らし、それに伴う様々な問題をなくすことを目標として、当協会のキャンペーンに、今年度も多数の応募がありました。今年度は、岡山県・高知県を対象とし、10月9日消印で応募を締め切りました。岡山県は、地元の新聞にキャンペーンの案内が掲載されなかったため、応募が少なめだったことと、葉書の重複が多かったことから、当選数も少なくなりました。高知県は、助成予定数を大幅に上回る応募があり、オス・メス共に当選数を3割増とさせていただきます。

		オス		メス		詳細不明 ※1	合計
		犬	猫	犬	猫		
岡山県	応募数	13	71	41	140	0	265
	当選数	11	49	36	109	-	205
高知県	応募数	47	179	103	407	31	736
	当選数	24	102	66	194	-	386※2

※1 オス・メス等詳細不明のため抽選対象漏れ ※2 オス・メス共に、予定当選数の約3割増

捨て犬・捨て猫 防止キャンペーン